第４６回全国ホタル研究大会報告

研究大会の概要

全国ホタル研究会の第４６回大会が平成２５年６月７日～９日の３日間、福岡県北九州市にて、全国ホタル研究会主催、第４６回全国ホタル研究大会北九州大会実行委員会主管、北九州ほたるの会・北九州市共催、環境省・国土交通省・北九州市教育委員会・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞西部本社・西日本新聞社・日本経済新聞北九州支局・時事通信社北九州支局・共同通信社・ＮＨＫ北九州放送局・ＲＫＢ毎日放送・九州朝日放送・ＴＮＣテレビ西日本・ＦＢＳ福岡放送・ＴＶＱ九州放送の後援で盛大に開催され、全国各地から１５２名（「２０１３ほたるサミット北九州」と合同で開催したシンポジウム参加者は４５０名）の参加をいただきました。

【１日目】

１３時から「北九州国際会議場」にて受付が始まり、１４時よりオリエンテーションが開催されました。中村会長の挨拶と永尾実行委員長の諸連絡の後、１４時３０分より同会議場内で、第一分科会「ホタルの生態研究」、第二分科会「ホタルの保護活動」、第三分科会「ホタルを通じたコミュニティづくり」の３グループに分かれて分科会が行われました。その後、バスで移動し、北九州ほたる館を見学しました。また、北九州市において代表的なホタルの生息地である合馬（おうま）地区と小熊野（おぐまの）川でゲンジボタルの飛翔を観察しました。合馬地区では里山環境を飛び交う数百個体のホタルに、小熊野川では市街地を流れる河川でもホタルが見られることに参加者は関心を示していました。

【２日目】

午前は、「第４６回全国ホタル研究会北九州大会」と「2013ほたるサミット北九州」との合同シンポジウムが同会議場で行われました。日明小学校合唱部のオープニングにより開会式が始まり、北九州市の北橋健治市長（今永建設局長代読）、中村会長の挨拶の後、来賓の紹介と祝辞がなされ、開会行事を終了しました。ほたるサミットに参加した愛知県阿久比町・滋賀県米原市・和歌山県紀の川市・岡山県真庭市・山口県下関市・福岡県北九州市の６市町におけるホタル保護、支援等の取組みが紹介された他、会員等によるほたる保護育成活動報告会が行われました。午後は、会員による６件の研究発表があり、研究発表会終了後に、第４６回総会が開催されました。

研究大会終了後は、リーガロイヤルホテル小倉にて、全国ホタル研究会の中山事務局長の司会で交流懇親会が開催されました。永尾実行委員長と北九州市建設局河川部の鷹

野美喜夫部長の挨拶があり、懇親会は進みました。アトラクションとして小倉祇園太鼓保存振興会 東浅野會による「小倉祇園太鼓」の演奏がありました。次期開催地である福井県勝山市に大会旗の受け渡しがあり、次期開催地を代表して福井県勝山市の松村誠一副市長の挨拶が行われました。懇親会では、地元の舞踊等のアトラクションを交えつつ、会員や地元大会関係者との親睦を深めました。

合同シンポジウム 開会式の様子

久米島ホタレンジャーによる人形劇
「山のくみ汁」の様子

「小倉祇園太鼓」の演奏

大会旗の受け渡し

【３日目】

希望者による市内観光（カルスト台地平尾台）を行い、各自解散となりました。

会　　場：福岡県北九州市　北九州国際会議場

大会日程：

６月７日（金）

13：00～14：00　受付

14：00～14：30　オリエンテーション

14：30～17：00　分科会　第一分科会「ホタルの生態研究」

第二分科会「ホタルの保護活動」

第三分科会「ホタルを通じてのコミュニティづくり」

18：30～21：30　北九州市ほたる館の見学

合馬築及び小熊野川にてホタル観賞

6月8日（土）

8：30～ 9：00　受付

9：00～ 9：40　第４６回全国ホタル研究会北九州大会，２０１３ほたるサミット北九州合同シンポジウム

オープニング（北九州市立日明小学校合唱部）

開会式

今永 博（北九州建設局長）、中村 光男（全国ホタル研究会会長）挨拶、来賓紹介・祝辞、祝電披露

9：40～11：15　サミット参加６市町の紹介とパネルディスカッション

パネラー：竹内 啓二（愛知県阿久比町長）

平尾 道雄（滋賀県米原市長）

中村 愼司（和歌山県紀の川市長）

太田 昇（岡山県真庭市町）

中尾 友昭（山口県下関市長）

今永 博（福岡県北九州市建設局長）

コーディネーター：大場 信義

（大場蛍研究所・全国ホタル研究会名誉会長）

アドバイザー：鑪（たたら） 雅哉

（環境省生物多様性センター総括企画官）

11：15～12：35　ホタル保護育成活動報告会

①ホタルを守ろう（北九州市立木屋瀬（こやせ）小学校4年）

②赤島川でのゲンジボタルを調査して（川上 雄大　北九州市立石峯中学校１年）

③北九州市ほたる館 １０年間のあゆみ（永尾 忠生　北九州市ほたる館前館長）

④世界のホタル（大場 信義　大場蛍研究所・全国ホタル研究会名誉会長）

12：35～12：40　ほたるサミット共同宣言発表、引継ぎ式

愛知県阿久比町・滋賀県米原市・和歌山県紀の川市・岡山県真庭市・山口県下関市・福岡県北九州市の6市町を代表して、北九州市の北橋健治市長による共同宣

言発表が行われ、来年度のほたるサミットが下関市に引き継がれた。

12：40～13：45　昼食

13：45～16：50　研究発表会

分科会報告

17：00～17：40　第４６回全国ホタル研究会総会

18：00～20：00　交流懇親会（リーガロイヤルホテル小倉にて）

６月９日（日）

8：00～12：30　平尾台観光

ホタル保護育成活動報告会：

①ホタルを守ろう ……　北九州市立木屋瀬小学校４年

②赤島川でのゲンジボタルを調査して ……　川上 雄大

③北九州市ほたる館 10年間のあゆみ ……　永尾 忠生

④世界のホタル ……　大場 信義

研究発表：

①中島川のゲンジボタル上陸・飛翔 10年間の観察から見えてきたこと

……　今村 高良

②400年余の歴史を刻む善光寺用水の改修とホタルを主体とした生き物の保全(Ⅱ)

……　三石 暉弥

③志賀高原・石の湯におけるゲンジボタル成虫の出現パターン ……　井口　豊

④ホタル移植指針とホタル再生・保護運動 ……　村上 伸茲

⑤ゲンジボタルの遺伝子解析による人為的放流か自然発生かの判別法

……　草桶 秀夫

⑥イリオモテボタルと近縁な仲間の研究の現状 ……　大場 信義

（共同発表の場合は発表者のみ）

分科会報告

実感！不思議の缶詰・ホタルとその生態

第１分科会進行担当　大内 紘三

第４６回全国ホタル研究会北九州大会にご参加の皆さん、また、大会関係者の皆さん、お疲れさまでした。とはいえ、観察会で訪れた合馬の里は日本の原風景を彷彿とさせ、谷川に沿って輝き続くホタルの道には言葉につくせない安らぎを覚えましたが、皆様は如何でしたでしょうか。北九州市での本会開催は２度目、前回、私はスライド係の担当でした。当時は大会前夜から受付、準備を始め、発表者の指示で幻灯機をガチャガチャと操作していましたから、今日のコンピューター・プレゼンには隔世の感です。

私、実は福岡県在住ですが縁あって、「北九州ほたるの会」に所属させて頂いています。当大会開催の企画がスタートして会員諸役の皆様は本番に向け協議を重ね多忙を極めて居られたのですが、私は少々遠方、事前協議は素通りと、少々後ろめたく思っていたところ、本番前の分科会の一つ第１分科会「ホタルの生態研究」を担当せよとの命で、重責と知りつつも少しだけ援兵の実感を頂いた次第でした。

分科会は会長、前会長をはじめ、３１人の方々が参加され、私と北九州ほたるの会の笹木氏で進行を努めました。このテーマはこれまでの大会で幾度となく取り上げられてきましたから、それではと私の独断で「雑談会」と位置づけ、諸氏の飼育・観察・研究の中で経験した大小の成果、疑問、考え方等々の紹介の場として進めることとしました。

会では、「終齢幼虫の上陸観察例」「上陸前後の変態観察の話題」「飼育中の幼虫に生育の違いは起きるか否か」「河川でのカワニナ、ホタルの増殖には牛フンが効果的」等々

多数の話題が提供されました。幼虫の姿のまま羽が生えた事例、腹部９節目と発光器が入れ替わったゲンジボタルの例、また、飼育幼虫の生育の違いでは、人工大量飼育でも皆揃って育つとの見解もでました。「牛フン」の件は後の総会の際でも発言があり皆さんもお聞きの通りです。この話題は当に「ホタルの生態研究」の重要一部で、私にも似た経験があり、また、同様の考え方で実際に取り組みをされた方も居ます。まさに一つホタル、カワニナに留まるものではなく、「生態系」全体の中で考察するべきテーマであろうと考えます。

転じて、研究発表では生態に関する多くの演題の中に、成虫の出現パターンの数理統計学的研究がありました。我々の周囲に起きる或いは、存在する「歴史あるもの」には、同時発生の一群でも個々の収束は異なるとの大原則があります。その発表は、それを一つの数式で表せるとしたものでした。観察例を多数とし、普遍性を増幅させて頂ければと思いました。不思議の一つとその解でした。

この分科会のテーマは我々の研究会の代名詞に位置づけられるものと言えるでしょう。会員の皆様はそれぞれに飼育・観察、研究を進める中で無数の不思議に出会いその解決に腐心されていることと思います。ホタルは私たちが一つの疑問を解くとその先の扉が開くのを待っています。数え切れない不思議に満ちています。進行を担当しつつその様なことを思った次第でした。

次回、勝山大会でも自然を思いやる活動報告、魅力溢れる生態の不思議が紹介されることを期待しています。

第３分科会　ホタルを通じてのコミュニケーションづくり

第３分科会座長　今村 高良＊、座長補佐　坂口 真二＊

第３分科会のテーマは「ホタルを通じてのコミュニケーションづくり」であったが、４９名の参加者がホタルの飼育、カワニナの飼育、放流の問題、関係者の高齢化と後継者問題、ほたるまつりの功罪など多岐にわたり幅広い意見や提案がなされた。

ほたるまつり：高齢化に伴う準備から実施段階での負担、終わってみればゴミの山、マナーの悪さも目に付く、「ほたるまつり」を止めたいと思っている。この様な意見も述べられた。主催者側にも問題がある、ホタル観賞はそっちのけで朝から晩まで舞台の行事が山盛りのところもある。特に、歴史のある地域ほどだんだんエスカレートして物心両面での負担も大きくなっている様だ。特に行政などが絡んで名物となっている地域ほど抑制することが難しい。ホタル観賞もやたら監視が厳しく子どもたちがホタルに触ることすら厳しく注意されることもある。

個人的な経験であるが、地元のほたるまつり（ホタル観賞会）で、遠方から来られた

子供さんが、「どうしてもホタルが欲しい」と云われ「１匹（♂）だけそっと持って帰りなさい」と渡した。後日、手紙が届き、持ち帰った１匹のホタルを枕元に１週間ほど楽しんだという内容だった。大量に捕獲し持ち帰って地元で放つことは避けるべきだが、こんな子供のために、見たり、積極的に手で触れたりさせる事は自然に触れる第一歩でしょう。

高齢化：ほたるのみならず、さまざまな活動の中で高齢化が言われることが非常に多い。参加者の中から、自分たちは高学年（中・高校生）を指導し、彼らが低学年を指導するシステムを構築している。ホタルだけで無く自然を経験し理解しホタルの活動にも理解が深まり後継者となって行くとのこと、高齢化を云われる組織の後継者となって行く、これは高齢化対策としての一つの方向性を示したものであろう。

＊北九州ほたるの会

大会開催地より

第４６回全国ホタル研究会北九州大会を開催して

大会実行委員長　永尾 忠生

今回の第４６回全国ホタル研究会北九州大会は、北九州市制誕生５０周年記念事業の一環としての位置づけの中で行うことができ、北九州市が独自に参加している「日本一のホタルの里づくり」を目指す行政の指導者が集う「２０１３ほたるサミット北九州」との同時開催という形で開催されました。そのため大会の運営が複雑となりましたが「北九州ほたるの会」と「北九州市・ほたる係り」との連携で、一部参加者の方にご不便、ご迷惑をおかけした点もあったようですが乗り越えることが出来ました。この大会を通して北九州市が行政とほたるの会が協力し合って活動している様子を「全国ホタル研究会」会員の皆様に認知して頂き、全国各地で活動している団体への参考になればと願っています。

今回の大会では、次の３点について配慮しました。

１．北九州市内では６８河川でゲンジボタルが飛翔していて５月末～６月中旬までが最盛期で、その年の気象状況で最盛飛翔場所がかなり違うので観察場所をどこにするか。さらに、都市部の中でもホタルの飛翔が見られる様子を視て頂くことで３箇所を決めました。全国ホタル研究会の会員には農村部の合馬地区と北九州市ほたる館に近い小熊野地区。サミット会員には小熊野地区と市街地域の槻田地区で時間差を設けて実施しました。３箇所ともに満足のいくホタルの飛翔が見られてほっとしています。

２．大会の運営では全国ホタル研究会とサミットの行事とのすり合せで、両方の参加者に満足して頂くことができるかということでした。大会後の参加者の皆様の反応から喜んでいただけたのではないかと思っています。

３．研究発表者の数から分科会の内容を充実してもらおうと、十分な時間と分科会の司会者に各地での経験豊かな実践者にお願いしましたので内容が充実したのではないかと思いますし、分科会の報告会を設け概略を発表して頂きました。

今回の北九州大会では、市内の「ほたる愛護団体」４２団体の中から実行委員として多くの方に協力頂き、４１名にお世話係として参加いただきました。参加者総数（サミット参加者含む）は３日間で６８０名の多くに至り、全国ホタルの会・会員関係者の参加者は１５３名、宿泊者は１３６名でした。大会が無事に終了できましたことは多くの方々の協力のおかげです。関係各位に厚くお礼申し上げます。

大会発表者より

北九州市立石峯中学校一年　川上 雄大

僕は、６月８日に北九州国際会議場で開催された「ホタルサミット」に参加して、小学生の時から続けてきた赤島川のホタル研究について発表する機会を得た。

一番最初に北九州市ほたる館の永尾館長さんから「ホタルサミットに参加してこれまでの研究成果を発表しないか。」と言われた時はとても驚いたが、これまで６年間の頑張ってきた研究の成果をいろんな人に聞いてほしいと思っていたので、いい機会だと思い精一杯頑張ろうと思った。

発表するまでには、これまでの集めてきた資料を整理したり、発表原稿を作成したり、パワーポイントでスライドを作ったりと、準備は大変だった。さらに多くの人たちの前で発表するので事前練習をしたが、上手く原稿が読めなかったり声が小さかったりして、人前で発表することの難しさを感じた。しかし、家族や周囲の人に励まされたり、ホタル館のスタッフの人たちにアドバイスをいただきながら一生懸命練習をした。

発表当日は、何百人も入る会場がとても大きく、偉い人たちや知りあいの人たちもたくさん来ていたのでとても緊張した。きちんと発表ができるのだろうかととても不安に感じたが、本番では落ち着いて声もしっかりとした発表をすることができた。発表後はみんなから褒められ、とてもうれしかった。

今回の発表でこれまでのホタル研究に自信を持つことができた。これからも時間の許す限り、ホタルのことについてもっと調べていきたいと思う。